

【事業実績】

【招へい作家】※作家の選定については、版画協会に推薦を依頼。

- ・東樋口 徹（とうひぐち とおる）氏 版画家（版種：シルクスクリーン）

1975 年京都府生まれ、東京藝術大学大学院卒、千葉県市川市在住、版画協会会員

- ・中村 花絵（なかむら はなえ）氏 版画家（版種：シルクスクリーン）

1990 年北海道生まれ、女子美術大学大学院卒、東京都在住、版画協会準会員

【滞在期間】

最大 3 ヶ月程度の長期の滞在を想定していたが、招へい作家と協議した上で、短期の滞在を複数回繰り返す形で実施。

滞在① 5 月 8 日（水）～11 日（土）全 4 日間 滞在環境下見、打合せ、取材

滞在② 5 月 25 日（土）～6 月 1 日（土）全 8 日間 取材、民泊、農業体験

滞在③ 8 月 24 日（土）～30 日（金）全 7 日間 取材、ワークショップ

滞在④ 10 月 24 日（木）～30 日（水）全 7 日間 ワークショップ、公開制作

滞在⑤ 3 月 4 日（水）～10 日（火）全 7 日間 展示準備、ギャラリートーク、ワークショップ

←感染症流行の影響により中止

【ワークショップ】

幼児対象ワークショップ

- ・北星保育園 ○ 8 月 29 日（木）10-11 時
青写真体験、22 名（園児 17 名、引率 5 名）
- ・多寄保育園 ○ 10 月 29 日（火）10-11 時
青写真体験、15 名（園児 12 名、引率 3 名）

中高生対象ワークショップ

- ・翔雲高美術部 ① 8 月 26 日（月）16-17 時
青写真体験、5 名参加
② 10 月 29 日（火）16-17 時
シルクスクリーン体験、5 名参加
- ・南中美術部 ① 8 月 28 日（水）16-17 時
シルクスクリーン体験、9 名参加
② 8 月 29 日（木）16-17 時
シルクスクリーン体験、9 名参加

大人対象ワークショップ

- ・版画ワークショップ ○ 3 月 8 日（日）10-16 時、シルクスクリーン

体験←感染症流行の影響により中止



【公開制作】

10 月 26（土）～27 日（日）、会場：いぶき工房 2 来場者：延べ 82 名（大人 68 名、子ども 14 名）



【地域交流】

民泊利用

- ・佐藤農場 5月25日（土）～27日（月） ・イナザーファーム 5月26日（日）～28日（火）

研修交流施設利用

- ・朝日山村研修施設、サイクリングターミナル

その他

- ・農業体験 ○田んぼの手植え体験、トマト収穫、トラクター試乗、農場見学 etc...



【取材活動】

取材場所（抜粋して列挙）

- ・士別市立博物館 ・市長表敬訪問 ・士別神社 ・屯田兵屋 ・グリーンスポーツ ・世界のめんよう館 ・羊飼いの家 ・羊と雲の丘 ・満天の星の丘 ・つくも水郷公園 ・川西の丘 ・絵音の館 ・岩尾内湖 ・サンライズホール ・日向森林公園 ・市内史跡各所 ・武徳溜池 ・上士別大型圃場 ・温根別ダム ・多寄三日月湖群 ・ポンテシオダム ・天塩岳ヒュッテ周辺 ・温根別化石産地 ・旧佐藤医院 ・産業フェア ・レストランてしお ・淳真 ・飯友 ・スープカレー侍 ・せいふう館 ・こいなか ・しべつ in 翠月 ・花の友 ・崑助 ・サフォークダイニング Shizuo ・たぬきや ・むらやま食堂 ・ヒルサイトボックス etc...

その他

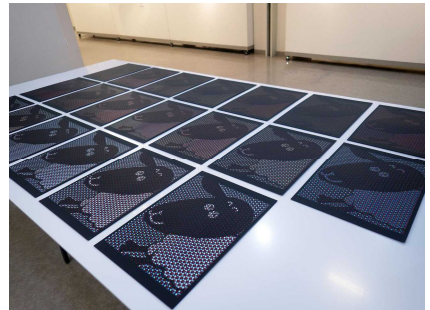
- ・JR やバス、自転車、徒歩により、市内各所を随時取材。



【成果作品】

シルクスクリーン作品

- ・東樋口徹、Road landscape (Route 61/Asahi-cho)、2020、63cm×90.4cm (63cm×45.2cm 二枚組)
- ・東樋口徹、Depot group (In front of Shibetsu station)、2019、38cm×31.5cm
- ・中村花絵、mononome、2020、54.5×70.0cm
- ・中村花絵、symbol、2020、26.5×20.0cm



参考作品（写真作品：ジークレープリント）

- ・中村花絵、warehouse、2020、25.5×59.4cm
- ・中村花絵、greenhouse、2020、25.5×59.4cm

【成果展覧会】

2020年3月7日（土）～23日（月）

（会場：いぶき地階市民ギャラリー）

来場者数：延べ255名（概算1日15名×17日間）

展示内容

- ・2019年度「土別の春」成果作品 6点
- ・2018年度「土別の夏」成果作品 8点
- ・2017年度「土別の秋」成果作品 2点
（立体作品2点は写真パネルで紹介）
- ・2016年度「土別の冬」成果作品 4点
- ・ワークショップ制作作品 大人17点、中高生13点
- ・市民制作版画作品 13点
- ・活動紹介 写真パネル18点
- ・版画の取組の歴史：版画集 土別の四季 8点

ギャラリートーク

3月7日（土）15時 ←感染症流行の影響により中止

出席予定作家：レジデンス招へい作家11名、小林敬生氏（土別ふるさと大使）



【広報・発行物】

発行物

- ・事業周知チラシ 1000部、5月30日発行
- ・公開制作イベント周知DM 1000部、10月3日発行
- ・成果展覧会ポスター 120部、チラシ1500部、2月21日発行
- ・成果図録 300部、3月24日発行

新聞取材記事

- ・道北日報「春テーマにした版画制作」2019年5月12日付
- ・北都新聞「春 描く2作家来市」2019年5月12日付朝刊
- ・北海道新聞「今年は版画家東樋口さん、中村さん」2019年5月12日付朝刊
- ・道北日報「園児と生徒対象に教室開催」2019年8月31日付
- ・北都新聞「子供たちが青写真体験」2019年8月31日付朝刊
- ・北海道新聞「市内滞在版画家中学生手ほどき」2019年9月6日付朝刊
- ・北海道新聞「士別の春 版画に表現 東樋口さんら公開制作」2019年10月27日付朝刊
- ・道北日報「現場を公開し市民と交流」2019年10月29日付
- ・道北日報「社説」2020年3月7日付
- ・北都新聞「招へい版画家が成果展」2020年3月8日付朝刊
- ・道北日報「4カ年の創作活動集大成を成果展に」2020年3月10日付
- ・道北日報「版画家が表現する士別の四季 2016年度冬編」2020年3月11日付
- ・道北日報「版画家が表現する士別の四季 2017年度秋編」2020年3月12日付
- ・道北日報「版画家が表現する士別の四季 2018年度夏編」2020年3月13日付
- ・北海道新聞「市内滞在作家らの作品展」2020年3月17日付朝刊
- ・道北日報「開拓100周年で制作士別の四季を展示」2020年3月21日付

新聞広告・告知記事

- ・道北日報「3月にレジデンス成果展」2020年2月22日付
- ・道北日報、成果展覧会周知広告、2020年2月26日付
- ・北都新聞、成果展覧会周知広告、2020年2月26日付朝刊
- ・北都新聞、ギャラリートーク中止周知広告、2020年2月29日付朝刊
- ・道北日報「レジデンス関連事業中止に」2020年3月1日付
- ・道北日報、ギャラリートーク中止周知広告、2020年3月1日付

その他

- ・プラクティス「(市町村の動き) 士別市アーティストの視点で士別を表現農業体験や地域住民との交流も」

30号 55p、公益財団法人北海道市町村振興協会、2019年9月発行

- ・広報しべつ10月号、お知らせページ 公開制作、2019年10月1日発行
- ・広報しべつ2月号、お知らせページ 成果展覧会・関連イベント、2020年2月1日発行
- ・専用フェイスブックページ (<https://ja-jp.facebook.com/shibetsu.art/>) 随時更新
- ・市公式HP 博物館のページ 随時更新

【参加者の声】

ワークショップ参加者

「部活動や私生活ではできない様な事を体験できて嬉しいです。」（翔雲高美術部）

「ぜひこのような事業？を続けてほしいと思う。とても楽しかったです。」（南中美術部）

「知らない技法ばかりでとても新鮮でした。一見簡単そうな作業でも実際にやってみると難しかったりして、こういった苦労があって素敵な作品が出来上がっているんだなと改めて感じました。」（翔雲高美術部）

成果展覧会来場者

「士別らしさが表現されており、”これこれ”という懐かしさを覚えました。作者によって表現が、見方が異なるのも大変面白かった。」

「地元にて当たり前になっている風景を作家さんから改めて、素晴らしいんだよって教えてもらったようです。」

「プロの芸術家の作品はもちろんのこと、市民が制作した作品を多く展示され、市民と芸術家の交流した様子を感じることができた。」

民泊受入農家

「新鮮な目で見つめてくれる芸術家さんは、日々の当たり前になってしまった風景や気持ちや行動という日常に、改めて息を吹き込んでくれるのを感じます。中村さん、東樋口さんを通してまた新たに士別の風景に息吹が吹き込まれたことを嬉しく思います。」

「士別の秋、夏、春と言うことで8人のレジデンスアーティストさん達と民泊を通じて交流させていただきました。アーティストの方々と接することによって想像すら出来なかった世界を、今回のことをきっかけに少しは想像ぐらい出来るようになったのかなと思います。」

「僕よりも多感な子供達であれば、普段の生活や体験学習やワークショップを通じ、本物に触れることによって、今までやっていたお絵かきや遊びの先にいろいろな世界があるということを実感的に感じ取ってくれたのではないかと思います。」